

体育・保健体育科の授業づくり・実践に関する研究

保健体育講座
准教授
本多 壮太郎

キーワード

・職能形成、協同的授業研究、戦術学習、運動リズム、志向・思考・試行

研究シーズの説明（私は、このような研究に取り組んでいます。）

私は、体育の授業づくり・実践に関する研究に取り組んでいます。具体的には、体育の授業づくり・実践において求められる職務遂行能力（職能）及び職能の形成要因に関する研究と、現場の先生方と協同で行う授業改善や授業・教材開発に取り組んでいます。

前者については、これまでの研究より、体育の授業づくり・実践において求められる職能は、「情熱・向上心」「運動・運動指導・運動の楽しさに関する知識」「責任感・使命感」「授業設計力」「集団統率力」「コミュニケーション力」「実技力・示範力」「観察力」「動きのイメージの伝達力」「授業展開力」に分類できます。これらの分析は、授業づくり・実践に優れた「エキスパート・ティーチャー」へのインタビューデータを基に行ったものですが、深層的、包括的、現実的なデータを収集することで、なぜこれらの職能が求められるのか、それぞれの職能はどのような過程を経て形成されるのか、といった疑問を現場の教員の実情に即したかたちで明らかにすることができます。

後者については、学校現場で先生方がそれぞれに抱える問題や課題を解決・改善するための協同的授業研究に取り組んできました。これまでに、タスクゲームとドリル（ゲーム）を往還的に結びつける戦術学習や音楽リズムを活用した運動リズムの育成及び技能の向上、予備的ルーブリックを活用した授業実践の有効性など、多岐にわたった実践研究に取り組んでいます。

職能形成においても、よりより体育の授業づくり・実践においても、重要なのは「日々の実践の省察と再構築」の積み重ねであることが明らかになっています。言い換えると、「志向」と「思考」と「試行」のサイクルです。これらの事例を幅広く、また、深く解釈し、現場の先生方に還元していています。

成果の応用可能性（私の活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

私の研究成果は、小学校、中学校、高等学校の校内研修や地域、県、九州地区の研修会・研究会・実技講習会などで紹介させていただいています。そこでは、理念的、規範的なものに留まらず、現実的で、具体的な中身を紹介したり、実際に身体を使って実践したりしています。例えば、職能研究については、エキスパート・ティーチャーの具体的な手立ての紹介や省察の在り方の実際の例など、協同的授業研究については、目標－実践－評価・成果に関する資料やエビデンス、音楽リズムに乗りながら運動技能を高めていく指導法の実技講習など、それぞれの現場での授業づくり・実践に活かしていくことができます。

授業の在り方は、児童・生徒の実態に沿うものでなくてはならず、学校やクラス、生徒の数だけアプローチの在り方は異なります。故に、教員は研究や研修、講習会で学んだり、習得したものをそのまま自分たちの授業づくり・実践にあてはめるのではなく、「自分のかたち」に変換する作業が求められます。その過程では、上記に述べた「志向」と「思考」と「試行」の積み重ねが不可欠です。エキスパート・ティーチャーの職能研究や現場の先生方との協同的授業研究を通してこれらの過程についてより役立つ情報を提供できるよう研究を続けていきたいと思っています。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- ・長崎市中学校保健体育科実技指導者研修会講師（平成26年度）
- ・第49回福岡県学校保健体育研究大会で講演（平成26年度）
- ・福岡事務所管内生涯スポーツ担当者等研修会講師（平成26年度）
- ・福岡県体育研究所専門研修（断続研修）保健体育講座研修講師（平成26年度）
- ・福岡県体力向上推進委員会委員（平成26年度）
- ・福岡県運動部活動推進事業に係る運動部活動検討委員会委員長（平成26年度）
- ・福岡県体力アップ福岡モデル調査研究委員会委員（平成26年度）